

1998/99年度研究会体制

<会長>山内 章 (やまうち あきら) 1956年8月12日生 名古屋大学農学部 TEL: 052-789-4022, FAX: 052-789-5558, E-mail: ayama@nuagr1.agr.nagoya-u.ac.jp

<副会長>大門弘幸 (だいもん ひろゆき) 1956年5月8日生 大阪府立大学農学部
TEL/FAX: 0722-54-9407, E-mail: daimon@plant.osakafu-u.ac.jp

副会長という大役を引き受けることになり戸惑っていますが、自由な雰囲気でお互いに質問を投げかけあったり意見が交換できる本研究会の発展に多少なりとも貢献できるようお手伝いさせていただくつもりです。よろしくお願いたします。

<事務局代表・評議員>矢野勝也 (やの かつや) 1967年6月10日生 名古屋大学農学部
TEL: 052-789-4024, FAX: 052-789-5558, E-mail: kyano@nuagr1.agr.nagoya-u.ac.jp

だらだらするのが好きな私が事務局という重要な仕事を任されているのだろうか、というのが正直な気持ちです。前任の阿部さんのようにうまくこなさそうと思わないことにし、とにかく会員の方々の足を引っ張ることのないように気を付けたいと思っています。是非、お気付きの点があれば教えて下さい。これまでは、主に菌根や根粒といった根における共生体を研究対象としてきました。これに加えて現在は、難溶性養分を可給化させる根浸出物、個体生長における根のコストと利益にも興味をもっています。根の研究会を通じて、多様な会員の方々との交流を楽しみにしています。

<評議員>阿部 淳 (あべ じゅん) 1962年3月30日生 東京大学大学院農学生命科学研究科
TEL: 03-3812-2111 内線 5465, FAX: 03-3815-5851, E-mail: abejun@hongo.ecc.u-tokyo.ac.jp/abejun@cup.com

無精な性格ですので、事務局を勤めた6年間は、不手際で多くの方にご面倒をおかけしました。この場を借りて、お礼とお詫びを申し上げます。今年からは、肝腎の研究自体でも、少しは貢献できるように精進したいと思います。陸稲を中心に、イネ科作物の根系を調査する予定です。

<評議員>有馬 進 (ありま すずむ) 1995年3月6日生 佐賀大学農学部 TEL: 0952-28-8720, FAX: 0952-28-8709, E-mail: arimas@cc.saga-u.ac.jp

農学部で作物を担当していることから、水稻・大豆など食用作物の栽培面から見た根系の生理生態ならびに根圏環境に興味を持っています。また、水生・湿生植物の根系についても関心があります。よろしくお願いたします。

<評議員>原田 二郎 大阪府立大学農学部 E-mail: harada@plant.osakafu-u.ac.jp

<評議員>波多野隆介 北海道大学農学部 FAX: 011-706-4960, TEL 011-706-3857, 2494, E-mail: hatano@chem.agr.hokudai.ac.jp

<評議員>平野 繁 (ひらの しげる) 1959年9月12日生 東京農業大学農学部 TEL: 03-5477-2678, FAX: 03-5477-2616 (農学科事務室), E-mail: s-hirano@nodai.ac.jp

飼料作物、特に、寒地型牧草の個体群動態を主に研究してきました。研究の現場に家畜がいる環境でしたので、家畜排泄物の作物生産への利用は興味のある分野です。排泄物の農地への施与は、土壌の化学性のみならず、物理性も改善するところから、現在は、根の生育と土壌の物理性との関係について、興味を持っております。「根の研究」では、根のことについて基礎から勉強させていただければと考えております。

<評議員>平沢 正 (ひらさわ ただし) 1950年10月29日生 東京農工大学農学部 TEL: 0423-67-5671, Fax: 0423-67-5671, E-mail: hirasawa@cc.tuat.ac.jp

研究の内容は、作物の光合成をはじめとする地上部の諸生理と根の機能との関係についての検討、根の生長、水分吸収能力の解析などです。よろしくお願いたします。

<評議員>一井 眞比古 (いちい まさひこ) 1945年3月31日生 香川大学農学部 TEL & FAX: 087-898-9437, E-mail: ichii@ag.kagawa-u.ac.jp

根の形態と機能の遺伝的制御を目標に稲を素材として研究を進めています。現在は、根の形態や生理に関係する突然変異体、特に根伸長性や生長調節物質耐性の突然変異体を稲の幼植物集団から選抜

し、それらの遺伝解析から根の形態や生理に関与する遺伝子を同定しています。同定した遺伝子の構造を明らかにするための実験も進めつつあります。また、会員の皆様のご協力を得ながら獲得した突然変異体の特性解析を発展させたいと願っております。

＜評議員＞飯嶋盛雄（いじま もりお）、1961年2月10日生、〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学農学部、Tel : 052-789-4020, Fax : 052-789-4012, E-mail; しばらくなし

今年の3月1日より12月30日まで10ヶ月間、文部省の在外研究員制度を利用してスコットランド作物研究所に海外出張します（偶然なことに、タイミングよく、ちょうど名古屋に事務局が来ました。すいません。）。根の研究で詳しく出張報告をさせていただきます。

＜海外連絡先＞ Dr. Morio Iijima, c/o Dr. Glyn Bengough, Soil-Plant Dynamics Unit, Cellular and Envir. Physiol. Dept. Scottish Crop Research Institute, Invergowrie, Dundee DD2 5DA, UK

＜評議員＞岩間和人（いわま かずと） 1950年12月13日生 北海道大学農学部、TEL: 011-706-2437, FAX: 011-706-3878, E-mail: Iwama@a2.hines.hokudai.ac.jp

＜評議員＞唐原一郎（からはら いちろう）、1966年10月2日生、富山大学理学部、TEL: 0764-45-6630(直通)、FAX: 0764-45-6641、E-mail: karahara@sci.toyama-u.ac.jp

職を得て潜伏すること2年、その間様々な方々の支援のおかげで研究環境が整ってきたことと私についてくれた学生たちのがんばりで、ようやく研究室が動くようになり、ぼちぼちデータも出始めました。お礼のつもりで今年度はブレイクしたいと思います。「カスパリー線」に注目して下さい。ところで、研究会賞が設けられて2年がたちました。受賞研究がハイレベルのものであったことにより、当初のガイドラインをより高いものに見直す方向になっているのは喜ばしいことです。これも研究会の会員層の厚さを表しているのだと思います。これからも若手の研究意欲をかき立て続けるようなものであって欲しいと思います。

＜評議員＞川島長治（かわしま ちょうじ） 1942年生 秋田県立農業短期大学、TEL: 0185-45-2026, FAX: 0185-45-2377, E-mail: kawasima@swan.apca.ac.jp

勤務先の雑用が多くて研究に当てる時間がありません。その雑用から早く解放されたいと願っています。

＜評議員＞小葉田 亨（こばた とおる） 1952年9月11日生 島根大学生物資源科学部農業生産学科食糧生産学講座、TEL: 0852-32-6505, FAX: 0852-32-6499, E-mail: kobata@life.shimane-u.ac.jp

根が水分欠乏下の物質生産と収量に及ぼす影響について興味を持っている。地域性の強い作物生産においてさらに変動の大きい根について定量的な関係を見るのは大変であるにしても、根と全体との関係を明らかにしてゆくことが大変重要であろう。

＜評議員＞鯨 幸夫（くじら ゆきお） 1949年9月29日生 金沢大学教育学部 TEL: 076-264-5479, 5475, 5488, FAX: 076-264-5614, E-mail: kujira@ed.kanazawa-u.ac.jp

「教育学部に席を置いているのに、どうして根の研究をしているのか？」との、質問を時々受けます。その時には、「容器の違いによって、中にいる人間を判断するのか」と、答えることにしています。根というキーワードだけで研究交流のできる本研究会は、それだけでも時代を越えた意味を持っていると考えています。イネとコムギを中心にした根の研究を行っていますが、実学としての農業現場との関係を常に視野に入れた研究をするように努めております。よろしくお願ひします。

＜評議員＞松尾喜義（まつお きよし） 1956年2月16日生 野菜・茶業試験場 茶栽培部 生理遺伝研究室 TEL: 0567-45-4101内線41, FAX: 0547-46-2169, E-mail: matuok@tea.affrc.go.jp

今回初めて評議員を勤めさせていただきます松尾喜義です。少しでも研究会運営の手助けをできればと考えていますのでよろしくお願いします。四国農試でイネの栽培研究を10年した後、8年前からチャの栽培生理の研究をしてきましたが、研究室の統合で現在は生理遺伝研究室に所属しています。根の研究にはずっと関心を持ちながらも、イネ研究の世界にいるときには自分の研究テーマとしてやったことはありませんでした。ところが、研究対象がイネからチャに変わった途端だれも調べたことのない未知の領域が山のようにあることが分かり、最近茶樹の木化根について集中的に検討しています。木の根に関心のある方は是非連絡を下さい。研究会の運営面では、事務局のお仕事のお手伝い

などをできるだけやって、少しでも会員のお役に立ちたいと考えています。

＜評議員＞松浦朝奈（まつうら あさな） 1965年4月26日生 九州東海大学農学部 TEL: 0857-23-3411(内線31,25), E-mail: asana@aa-1.ktokai-u.ac.jp

根研究会評議員に抜擢くださり、誠にありがとうございます。新しい職場に来て、まだまだ落ち着きませんが、一層、根の研究に邁進したいと思っています。微力ながら、大役を果たすべく努力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

＜評議員＞南 基泰（みなみ もとやす） 1964年12月25日生 国立医薬品食品衛生研究所 筑波薬用植物栽培試験場（ヒューマンサイエンス振興財団 流動研究員）TEL: 0298-38-0572, FAX: 0298-38-0575, E-mail: minami@nihs.go.jp

ポストドクとして、現在は「薬用植物の人為的交配種の遺伝子発現機構」について、研究中です。直接は、根を研究する機会はなくなりましたが、本研究会を通して「根」の勉強は続けていきます。

＜評議員＞森田茂紀（もりたしげのり） 1954年1月30日生 東京大学大学院農学生命科学研究科 TEL: 03-3812-2111 内線 5465, FAX: 03-3815-5851, E-mail: anatomy@hongo.ecc.u-tokyo.ac.jp

海外出張が増えてきたため2年ほど前に成田空港の近くに引っ越し、昨年からは近所の農家水田を借りて週末に通い始めました。個体全体の生育や収量形成における根系の役割を解明するためにはどのようにアプローチしたらよいかを考えていますが、考えてもよく分からないので、まず手と足を動かすことにしました。また、いい蛍光顕微鏡が手に入りましたので、根系を構成する個々の根の形態と機能との接点を攻める武器になることを期待しています。今年からは会長と副会長のお邪魔にならないように、ひっそりと地道に活動していきたいと考えています。

＜評議員＞中谷 誠（なかたに まこと） 1959年1月21日生 九州農業試験場畑地利用部 TEL: 0986-22-1506, FAX: 0986-23-1168, E-mail: mnakatan@mykz.affrc.go.jp

主にサツマイモの根の機能、特に塊根の形成や肥大・物質集積機能をメインに仕事をしてきました。現在は、遺伝資源利用という研究室で、サツマイモ育種のための手法や素材作りを担当しており、根の機能という切り口で、遺伝資源を見るのもおもしろいかなと思っています。作物学会等いくつかの学会にも入っていますが、本会を含め評議員等の役職を仰せつかるのは初めての経験です。役割が果たせるか心配ですが、どうかよろしく願います。

＜評議員＞新田 洋司（にった ようじ） 1963年11月29日生 高知大学農学部 TEL: 0888-64-5123, FAX: 0888-64-5341, E-mail: ynitta@cc.kochi-u.ac.jp

水稻を中心としたイネ科作物を材料にして、根の原基の形成について解剖学的に調べています。根の原基が茎のどこに、どのようにできるかを調べる単純な仕事です。相変わらずパラフィン切片法を使ってやっていますが、そろそろ何か新しい手法も取り入れたいと思っております。今回、評議員をさせていただくことになりました。どうかよろしく願いいたします。

＜評議員＞大江 真道（おおえ まさみち） 1967年3月22日生 大阪府立大学農学部 TEL: 0722-54-9407 (FAX兼), E-mail: ohe@plant.osakafu-u.ac.jp

評議員という大役を仰せつかりましたが、十分にお役に立てるのか不安です。会員の皆様方にはどうぞよろしくお願い申し上げます。研究は「湛水深の調節による日本型水稻の生育制御」をテーマに行っています。水稻の生育にあわせて湛水深を深くすることで生育の制御を行い、積極的に多収型の生育に導こうとするものです。水管理は人為的にコントロールがしやすいという利点があり、また無効分げつの抑制による受光態勢の改良、肥料の利用率向上の他に、深水の雑草防除効果による農薬散布量の削減も期待できることから、従前の施肥に重点を置く多収穫技術とは異なり、持続的で環境保全型の栽培技術となり得ると考えております。現在の研究テーマは「根」とはちょっとはなれておりますが、当研究会を通して今後は「根」についての視野も広めて行きたいと考えております。趣味はツーリング、釣り、HAM (JJ3INE)等です。

＜評議員＞高橋秀幸（たかはし ひでゆき） 1954年10月8日生 東北大学遺伝生態研究センター TEL: 022-217-5714, FAX: 022-263-9845, E-mail: hideyuki@bansui.ige.tohoku.ac.jp

<評議員>谷本英一（たにもとえいいち），1944年1月27日生 名古屋市立大学・自然科学研究教育センター・生体分子科学，TEL: 052-872-5865(直)，FAX: 052-882-3075，E-mail: tanimoto@nsc.nagoya-cu.ac.jp

植物学会、植物生理学会、植物化学調節学会、国際植物生長物質学会、宇宙生物学会、生物教育学会などに所属し、主に植物学会と植物生理学会で研究発表を行っています。研究分野は生長生理学で植物ホルモンによる生長生理学、特に生長に伴う細胞壁の変動を中心に研究しています。現在、根の細胞壁多糖類の分析と、細胞壁の力学的性質の変動を調べています。クリープ法によるエンドウ、アズキ、トウモロコシ、コムギの根の伸長帯部分の細胞壁の伸展性を *in vitro* で計測しています。生理条件、環境条件の変動とこれらの細胞壁の性質の相関関係から成長を規制する細胞壁の動的な姿を捕らえようというわけです。根研究会を通じて、圃場での多彩な生長現象などから、実験室での研究のヒントを得たいと期待しています。

<評議員>巽 二郎（たつみ じろう）1948年2月14日生 名古屋大学農学部 TEL: 052-789-4019, FAX: 052-789-5558, E-mail: jtat@nuagr1.agr.nagoya-u.ac.jp

作物の根の生長における物質分配過程。根の形態と構築構造の解析。非マメ科共生植物による窒素固定など。年々、根の研究が文字どおり分子生物学から生態学までの幅広い分野における不可欠の基盤となりつつあるようです。本研究会がその発展に寄与できるよう、新しい会長と副会長をバックアップしたいと思います。

<評議員>俵谷 圭太郎（たわらや けいたろう）1960年12月16日生 山形大学農学部 TEL: 0235-28-2870, FAX: 0235-28-2812, E-mail: tawaraya@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp, <http://www.tr.yamagata-u.ac.jp>

専門は植物栄養学と土壌学です。アーバスキュラー菌根の形成機構と植物のリン酸獲得機構について研究しています。菌根が形成される過程では、根と土壌中の菌との間の相互作用がありますが十分解明されておらず、その作用機構について解析を進めています。また、植物は1) 根系の発達、2) 菌根形成、3) 有機酸の放出、4) フォスファターゼの放出等のリン酸獲得機構をもっていますが、これらの相互作用についても興味を持っています。

<評議員>辻博之（つじ ひろゆき）1966年1月30日生 農業研究センター作付体系研究室 TEL: 0298-38-9532, FAX: 0298-38-8532, E-mail: tuzihiro@narc.affrc.go.jp

畑地の不耕起栽培について研究を進めるなかで根に着目し、その分布などを調べています。不耕起で栽培した作物の根は、耕起畑に比べて大きな土壌の抵抗、少い孔隙、土壌水分保持力の増加、攪乱されないなどといった環境条件のもとで、表層よりに密集して存在しておりますが、このような根の張り方を活用し、効率的で適切な（ついでに安くて楽な）管理を組み合わせ、生産力の高い不耕起栽培法ができないものかと検討を始めたところです。栽培の現場に埋もれている、根に関連した様々な疑問の種をつまみだして、色々な専門家がそろっている根の研究会に投げかけていきたいと思っています。よろしくお願いします。

<評議員>山下正隆（やました まさたか）1948年11月2日生 九州農業試験場畑地利用部 TEL: 0986-22-1506, FAX: 0986-23-1168, E-mail: my898@mykz.affrc.gp.jp

1996年10月に鹿児島県にある野菜茶試から宮崎県都城市にある当部へ移りました。長年チャを対象に栽培生理学的な立場から根の研究をやってきましたが、現在は、カンショを対象に根系形成と地上部の生長、根の肥大との関係や塊根の内部組織からの不定根、不定芽形成条件に関する研究を行っています。これまで、チャ、野菜、畑作物を手がけましたが、木本、草本を問わず根の研究の遅れが目につきます。今農業から求められている省力化、環境保全の問題には根からの取り組みも有効と思います。今後とも、栽培現場との接点を求めながら、生理生態的基礎研究を通して作物の根の役割を見直していきたいと考えています。都城でも相変わらず白波党を標榜しています。作物と違って味覚の方は簡単には切り替えができないようです。よろしくお願いします。